

令和7年度第3回北区地域公共交通会議
議事要旨

◇ 日時

令和8年2月19日（木）午前10時から

◇ 場所

北とぴあ第二研修室

◇ 会議次第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 委員紹介

4. 議 題

（1）北区地域公共交通計画の改定について

（2）コミュニティバス(浮間ルート)の本格運行移行について

（3）赤羽西地域の新たな公共交通の運行計画（素案）について

（4）デマンド型交通実証運行の継続について

5. 報 告

6. 閉 会

◇ 出席委員

29名（敬称略・順不同）

会長 久保田 尚

委員 鈴木 啓三、杉山 徳卓、丸野 由美子、三好 常枝、鈴木 健史、
井上 清一（代理：新田 晋平）、佐藤 智彦（代理：有馬 勇希）、
榎本 則彦 木原 光資（代理：野崎 理）、地宗 知子、
高橋 哲哉（代理：伊藤 和広）、櫻井 昭夫（代理：今中 涼平）、
倉本 広太郎（代理：丹治 宏）、永見 則雄、奥村 公章、
近藤 琢哉（代理：小林 晃平）、小林 聡（代理：戸澤 慶子）、
中山 俊夫（代理：鈴木 恒成）、丸 友文、石本 昇平、
西東 俊郎、橋本 孝、雲出 直子、岩本 憲文
事務局 交通事業担当課

議事内容

1. 開会

- 事務局より開会宣言

2. 会長挨拶

- 会長より挨拶

3. 委員紹介

- 事務局より委員紹介

4. 議 題

(1) 北区地域公共交通計画の改定について

(委員)

今回行われるアンケート調査は非常に重要であり、地域公共交通計画を作るにあたり必要不可欠であると思っている。大規模にアンケートを取る良い機会なため、ぜひ反映してほしい項目がある。

①国際興業バスは、特に赤羽駅西口だと通勤・通学のための北区外の区民の利用が多い。国際興業としては、アンケートで区民のニーズが判明したとしても、現に利用している区外利用者のニーズにも答える必要がある。今回のアンケートで、区外の方々の意向を把握する意図はあるのか。

②運輸事業において、今一番の課題は担い手不足である。それはつまり経営資源が足りないということである。アンケート調査でニーズを把握することはできても、それに対応するために新しいことを行おうとしても経営資源が足りず、今ある何かを削らなければならない。すべてに対応できわけではない以上、ニーズに対して優先順位をあわせて聞いておく必要があると考える。

③これまでのように経営資源が足りていた時代は、利用者＝消費者であり、利用者は公共交通サービスを自らが使いたい時に使いたいものを使っていけばよかったが、現在だと、公共交通サービスを使って支えるという立場になる。もしくは担って支えるという立場。交通政策に関与するとか、交通を維持できるように考慮して利用するとか、グリーンスローモビリティ等の担い手になる等の選択肢があり、住民の方々の係わり方が多様化しており、住民の方がどのように関与できるのかも含めて質問してほしい。

(事務局)

①②をあわせて回答となるが、アンケートとは別に各事業者様へのヒアリングを実施する中で、事業者様が日頃より運行をしていく上で受けている利用者からの要望、意見に対応するため検討されている改善のための施策を把握し、それらへの対策、支援を確認の上、

地域公共交通計画にどのように位置づけられるかを検討していく。

③については、地域・利用者が地域公共交通に対して認識を問う項目の中で、自身の地域公共交通へ貢献する意識を測っていきたい。

（委員）

最近、様々なアンケートにおいて、小中学生の意見を聞き、区の考え方に取り組む流れがあり、そのこと自体は良いと思うが、小中学生からの意見をどのように政策に反映させていくのが大切になる。

今回のアンケート内容だと、前提条件が提示されていない状態で意見を聞いて集約しても何も出てこないのではないかと。例えば、自動運転のような新しい技術を示し、どのような技術があり、どのように使われていく可能性があるのか等、前提となる知識がある状態が望ましいため、事例等を示してはどうか。新しい技術革新を前提に活用するという考え方を新たな地域公共交通計画に盛り込むべきだと思う。人材不足に対する解決策としてはテクノロジーを利用していくべきと考えており、そういったことを前提に計画を作っていただきたい。

（事務局）

自動運転に代表されるような新たな技術については、様々な自治体でも取り組まれており、北区においても地域公共交通計画に位置付けることは必要であると考えている。ただし、自動運転に関するアンケート項目としては前提条件等複雑になるため個別の質問としては取り上げていない。地域公共交通の課題解決策の一つとして自動運転というのは考えられるため、そのようなご意見をアンケートから取得し、地域公共交通計画に反映させていきたいと考えている。

（会長）

小中学生に対し、誤解のないような形でアンケートをとること。

（２）コミュニティバス(浮間ルート)の本格運行移行について

（会長）

記念品とは何か。

（事務局）

運行開始時に作成したエコバックとハンドタオル等の在庫があるため、浮間ルート of 主要なバス停でできる限り広い範囲の利用者に配布したい。

（３）赤羽西地域の新たな公共交通の運行計画（素案）について

（委員）

本件について、前回の地域公共交通会議においても意見を述べてきた。その後、北区と協議を行い、今回のような運行計画（素案）が示された。

国際興業としては、これまでも、これからも北区の公共交通を担い、一体的なネットワークを維持することが最大の任務であると認識している。その任務を果たすにあたり、北区が今回このような施策を定めたことを受け、本路線を国際興業で運行させていただきたいと考える。その目的は、新たな公共交通と相まって、区内の交通体系を安定的に将来にわたって維持し、利用者の皆様に持続的に利用していただくためには、それが最適であるという判断に至ったためである。今後、運行計画（案）に向けて検討がなされていくことになるが、いずれにしても国際興業で運行をさせてもらえれば幸いである。

（事務局）

説明にもあったが、令和８年度より事業者の選定を実施する。プロポーザル型の公募による事業者選定を検討している。地域の特性等の様々な要件があり、その中で地域の利用促進、満足度、利便性の向上に資する提案をされた事業者をお願いしたいと考える。地域のネットワークといった観点も評価したい。

（委員）

運賃について、民間の事業を圧迫しないための値段設定だと思うが、区民としては、コミュニティバスは他よりも安いという認識がある。赤羽西地域のコミュニティバスの位置づけを改めて考える必要があると考える。

運賃の支払いについてだが、来年度から北区でも地域通貨ができるにあたり、コミュニティバスのようなところでは、地域通貨を活用していく前提で考えるべきである。

（事務局）

今回お示ししているのは運行計画（素案）であり、運行事業者選定にあたっての詳細な募集要項をこれから検討していく段階である。支払方法については、最低限の基本的なものをお示ししている。様々な支払方法があることが望ましいと思うので、それらについても運行事業者の提案を受けて検討したい。

（委員）

今年の秋からの地域通貨導入に向けて事業者の選定を行っている。地域通貨については、庁内として横断的な連携をとということで現在検討をしているところである。赤羽西地域のコミュニティバスについても、今後連携を取りながら検討していきたい。

（４）デマンド型交通実証運行の継続について

（委員）

デマンド型交通というのは堀船地域だけで行われているのか。

また、認知度は上がってきているというがどうなのか。

（事務局）

交通の利便性向上が必要な地域ということで堀船地区のみで行われている事業であるが、一部乗降制限を設けながら、花と森の東京病院や北とびあ等、地区外でも乗降場所として設定している。

認知度については、昨年度の 40%台から今年度は 70%程度まで上昇していることから、地域に認知されてきていると考える。あわせて利用者も昨年 7 月頃から大幅に伸びている。

しかし、経費も増加しており、来年度は適切な運行形態を検討するため、運行を継続しながら検証を行っていく予定である。

（委員）

運行にあたっては地元のタクシー会社が参加しているのか。

（事務局）

王子地区町会自治会連合会及び王子地区町会自治会連合会活性化委員会から要望があった。また、客観的な指標である交通の利便性が比較的低い範囲の面積等から地区の選定を行い、堀船地区での運行となった。本事業を全区的な取組とするかどうかも含めて実証運行中である。

防災の関係で輸送支援について北区と協定を結んでいる北区タクシ・ーバス事業協議会と連携して運行している。

（委員）

堀船地域のようなデマンド型と、赤羽西地域で検討されている路線定期のバスのようなものとは、経費的にはどう違うのか。

（事務局）

経費において大きく占めるのが運転手さんの給与である人件費になる。バスについては大型二種免許を持つ方への給与、デマンド型では基本的に国が定めるタクシー運賃に基づく給与となる。大きな違いとして、コミュニティバスは車両を買い上げるが、デマンド型ではタクシー事業者の車両を活用しながらの連携となり、車両と運転手さん含めての貸与としての経費となり、単純な比較は難しい。

(委員)

利用者数によって異なるのではないか。

(事務局)

利用者数の規模でいうと、1 台で運ぶことができる輸送人員に限られる。利用者数自体に大きな差がある一方で、新たな公共交通を導入すると経費として2,000万円程度がかかるということをどのように評価するのかというところを、来年度検証をしていく。

5. 議 題

(1) 東京バスにおける外国人運転士採用につきまして

- ・東京バス様より報告

6. 閉 会

- ・事務局より、閉会宣言

以上